

園だより 5月

子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。それは正しいことです。

エフェソの信徒への手紙 6章 1節

入園・進級式を優しい桜色でお祝いしていた園庭の桜の木は、いつの間にか鮮やかな新緑に変わりました。今は子どもたちを強い日差しから守ってくれています。

幼稚園での生活が始まり、ひと月余りが過ぎようとしています。新入園の子どもたちの朝のご挨拶も緊張感が緩み笑顔が増えてきたこの頃、一人ひとりの心もちもどきどきそわそわな様子から「おもしろそう」「やってみようかな」に心の動きが感じられ、子どもたち同志の出会いや交わりのときが過ごされています。そのような幼稚園での穏やかにゆっくりと過ぎていくときの流れの全てが、今私たちに与えられている神様の恵みであることに感謝なひと月でした。年長組、年中組は勿論のこと、年少組さんも小さなことり組・つくし組さんもそれぞれのペースで動き出し、心地よいお日様の温かさを感じながら個々に心と体を動かし、自ら遊ぶ子どもたちと一緒にゆっくりと過ごすとき、改めて子どもたちの「遊び」の尊さを思いました。

一般に言うレジャーの「遊び」とは違う、子どもたちが日々幼稚園の生活で繰り広げている成長への育みとなる大切な遊び。ダンゴムシを探しているとき、砂場でおいしかき氷を作っているとき、チラシで棒を作っているとき、どの様なときも子どもたちは頭の中で多くを想像し、考えを廻らせています。例えば、チラシを丸めて棒を作ることを取り上げてみますと、チラシを丸めだした子どもたちは頭の中ではそれぞれに出来上がる棒をイメージし、それに近い作品を作ろうと手を動かします。自分で思い描いた棒が出来ると満足げにそれを使って遊びだします(見たところフワフワの棒?であったとしても)。けれども、細く堅い棒をイメージしていた子にとって、出来上がった棒に納得がいかない状況になることがあります。当然のこと、なんとかイメージしている棒を作りたいと思います。何度もやり直します。指先の感覚で力の入れ具合を調節したり、途中でチラシが戻ってしまわないよう指で抑えながら紙を押し進めます。頭の中で思い描く棒を指先の感覚を駆使し工夫して満足のいく作品に作り上げていこうと真剣です。自分一人ではできないと考え近くの保育者に助けを求め、保育者と手加減を体感しながら進めていく子もいます。その「作りたい」という自分の思いを強く持つこと、そしてどうしたら作ることが出来るかを考え、自ら工夫をしたり、時には手伝ってもらったり、何度も繰り返し、自分のイメージした細い棒を作ることに夢中になること、そして遂には自分だけで堅く細い棒を作り上げること、そんな経験の積み重ねが子どもたちの様々な育みに繋がっています。私達保育者はその育みの過程を見守り、心行くまで自分の思いを大切に過ごすことが出来る環境を整え、その思いをしっかり受け止め認める者でありたいと願います。

どうぞ、自分で遊びを見つけ選び、夢中になって遊び込み、試行錯誤しながら自分の思いを十分に深めることによって子ども達の「生きる力」が育まれていることを今一度認識し、共に見守ってくださいますことをお願い申し上げます。爽やかな皐月の風を感じながら今月もゆっくりと過ごしてまいりたいと思います。

園長 駿河 幸子